

## 参加ゼミ生たちからのメッセージ

初めて訪れる沖縄ということも相まって期待に胸が膨らむ反面、この短い期間で何をどれだけ学び取れるか見当がつかず、とても不安でした。しかし、実際に現地についてみると、新鮮な発見ばかりで、毎日が刺激に満ちあふれていました。この中で1番印象に残ったのは、民泊体験です。民泊先の伯母とはすぐに打ち解け、本当のお母さんのように接してくれました。郷土料理を一緒に作って味わったり、村前の浜に降りて星空を眺めたり、楽しいことだらけで三日間があつという間にすぎていってしまいました。ここで教わった「いちやりばちよーでえー(出会えばみな兄弟)」という沖縄の人たちの暖かさを示す言葉は、自分が社会人になってからも大切にしていきたいと思います。 - 熊谷 唯花

今回の合宿では「現地の人々の生き様に触れて自身のこれまでの生き方を見つめ直す」というゼミの主要な学びのスタンスを実践できたと感じています。民泊でお世話になったウチナンチュの人たちが大自然の中で逞しく生きる姿から、都会暮らしの融通のなさを実感し、エコな環境づくりや生活が人間的な豊かさにつながる点がヤンバルでの暮らし体験から実感することができました。沖縄といえば綺麗な海とリゾート、そして国際通り、あるいは基地問題といった側面でしか語られないことも多いですが、それだけでは知ることができない、田舎における地域社会の持続的な発展の大切さが理解できました。利便性ばかりを追い求めがちになってしまう自身の都会暮らしについて多くを省みることができ、この実習は掛け替ええない学びの機会となりました。 - 深見 桃子

今回自分が沖縄に飛び込み、現地を「虫の目」で這いまわり、五感で人々の生き方を感じたからこそ得られた学びは、実に人間であることの素晴らしく美しい側面をハイライトしてくれるものでした。島の人々の「生き方」に関する思いや訴え、都会で忙しく暮らしては見えてこない価値観など、多くの価値あるものに気づかされました。「妄想(実習前の構想)と現実(実際に現地で得た情報)のギャップ」に気づくことも実習の大切な目的だとするなら、「虫の眼」で這い回った沖縄でのフィールドワークは、自分が事前に妄想していたような観光地や基地が占める沖縄とはかけ離れたものでした。 - 上田 康平

沖縄実習に参加してみて、同じ日本であるのに時間の流れや生きることに對する価値観が異なることがわかりました。沖縄の人たちは時間に縛られすぎず、ゆとりをもった暮らしを心がけ、そんな時間を楽しんでいるようでした。また、必ずしも金銭的な営利に価値を置くのではなく、生活や家庭そのものに生きがいを見出し、人生を豊かにしていくことを重視している点も理解でき、とても感銘を受けました。もちろん、本土でもそのような習慣や観念が残っているところはあるでしょうが、被植民地支配の歴史や今に続く基地問題の実情にも触れながら実感できたのは、こうした体験や状況が人間性を育む暮らしの大切さを一層強調しているのだと思いました。絶えず空中を旋回する軍用ヘリコプターの下で反戦美術を鑑賞することで、自分も一層政治的な関心を持ち、一国民として何ができるかを考えさせられ、これからもそういったことを考えていくことの大切さに改めて気付かされました。この沖縄実習では、文献やメディアの情報だけでは知り得ない沖縄の実情を体感し、物事を鵜呑みにすることなく多角的な視点で考察していく術を教えてくださいました。 - 吉田 璃里花

沖縄実習に参加して、現地に行って体験しなければわからない「生き様」を実感してることができました。日本的な価値観とアメリカ的なライフスタイルとが、地元の生き方と絡み合いながら紡ぎ出される「チャンプルー文化」について、本やネットの情報だけでは知り得ない地元の人たちの共存への姿勢を、コザの街を歩くことによって体感できました。そんなチャンプルー文化が醸し出す接触域ならではの街並みがとても印象的でした。また、大きなイベントであった民泊では、お世話になったお宅のお母さんとじっくりゆんたく(対話)ができ、生活の知恵や人間的なあり方の大切さを教わりました。また、基地問題について語るときの悲しそうな声や表情に、同じ国民としての責任感を感じ、自分には何ができるか考えさせられました。沖縄に行って関わることでできた方々から得られた知識、考え方、そして感性を宝にこれからの人生を歩んでいきたいです。 - 小鷹 ゆりあ

沖縄実習に参加し、初めは自分が予め考えたテーマで研究を遂行できるか不安でしたが、実際に現地に行かなければ分からない地域社会の環境や価値観に触れ、多くの人とコミュニケーションを取ることで、視野が一挙に広がりました。興味があった伝統芸能、特に琉球舞踊とエイサーについて、文献だけでは知り得なかった現地の人々の情熱や実践方法、継承様式などについて、実際に伝統芸能に関わっている方々の声を聴くことができて感動しました。基地問題や観光開発の実態に接しては、やはりこれらの外圧や外来産業が地元の文化温存にもたらす損失について感じる場所がありました。今回の実習経験は自分のかけがえない人文財産となるものでした。学んだことを将来に活かしていきたいと思います。 - 齋藤 万梨香